

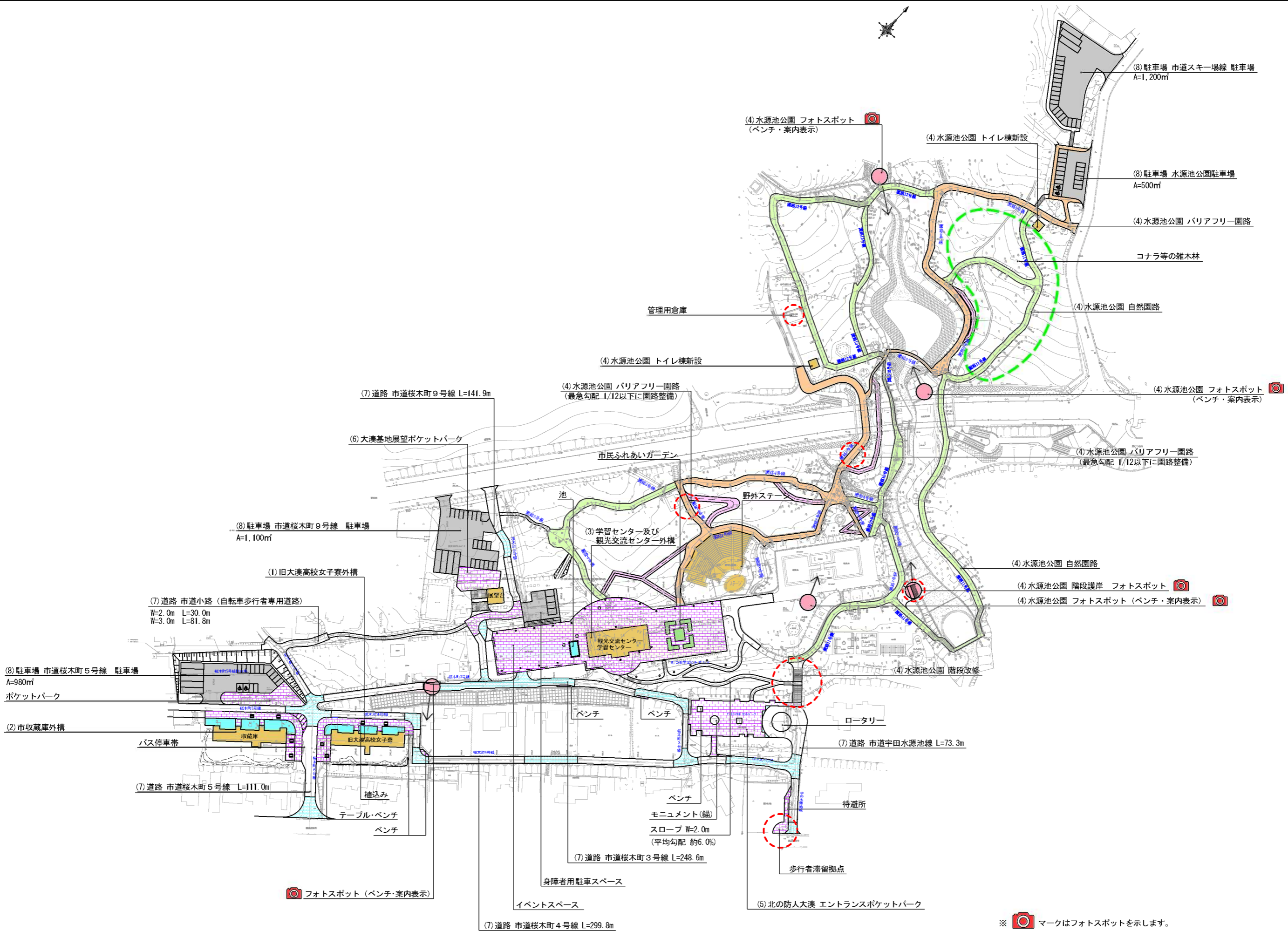
北の防人大湊地区都市再生整備計画

基本計画（案）

【建築】

平成24年 2月10日

株式会社 石川設計



※ マークはフォトスポットを示します。

〈観光交流センター配置計画〉



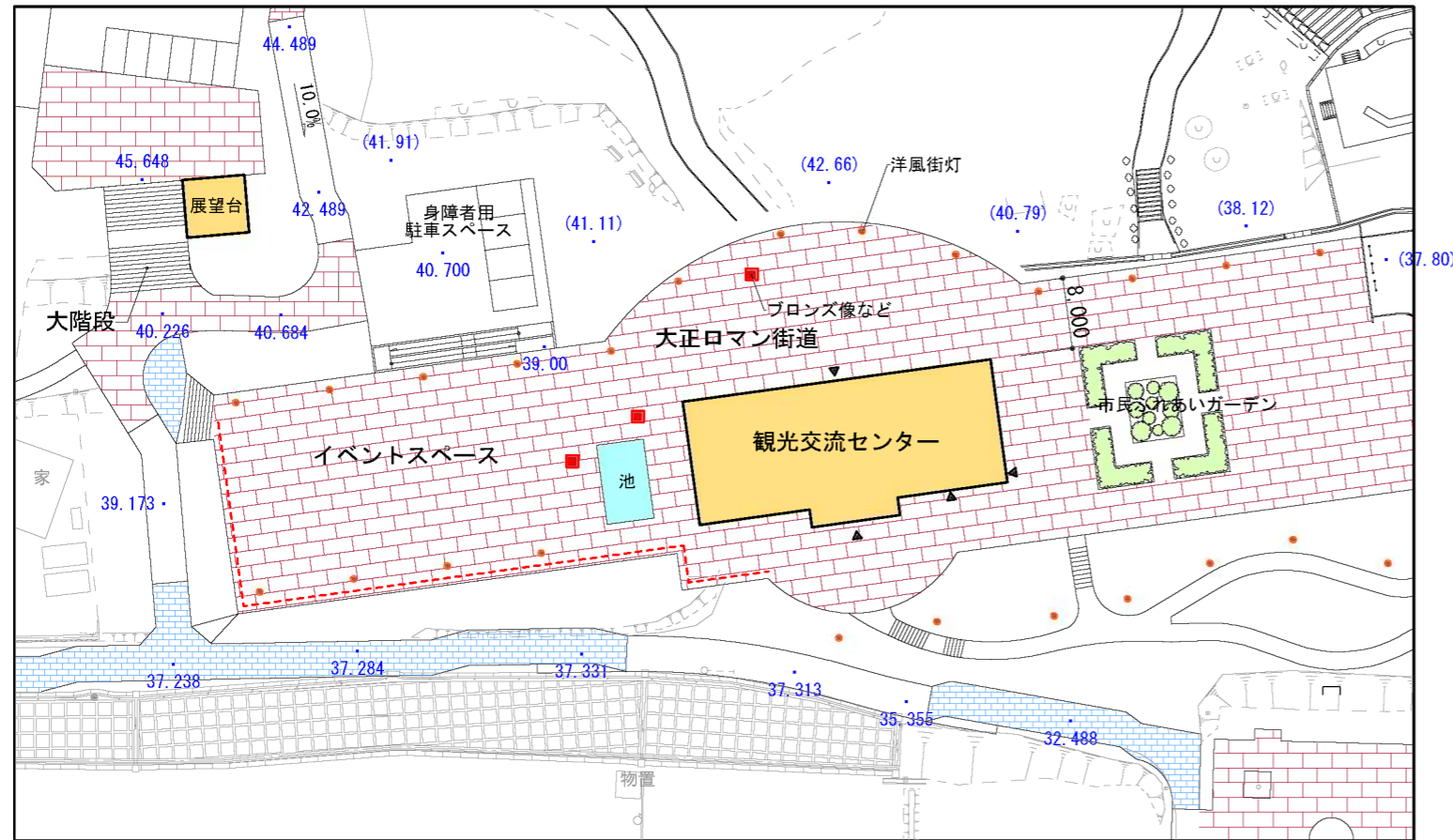
写真1 街灯イメージ



写真2 建物ライトアップイメージ



写真3 ブロンズ像イメージ



観光交流センター 配置計画

- 〈凡例〉
- : 街灯
 - : ブロンズ像など
 - : 柵
 - : 計画建物



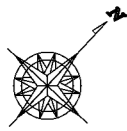
写真4 人力車レプリカイメージ



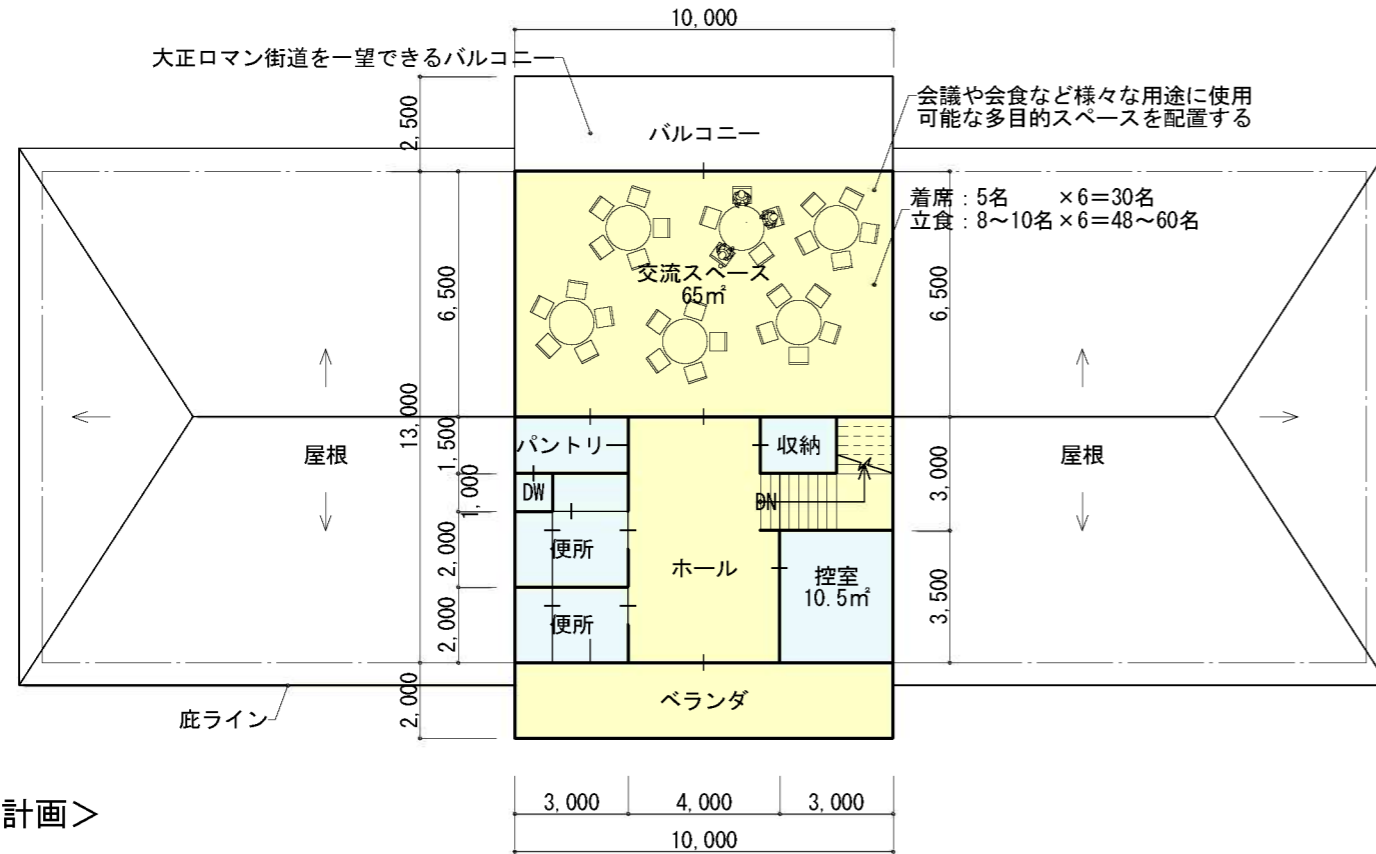
写真5 門イメージ

〈大正ロマン街道〉

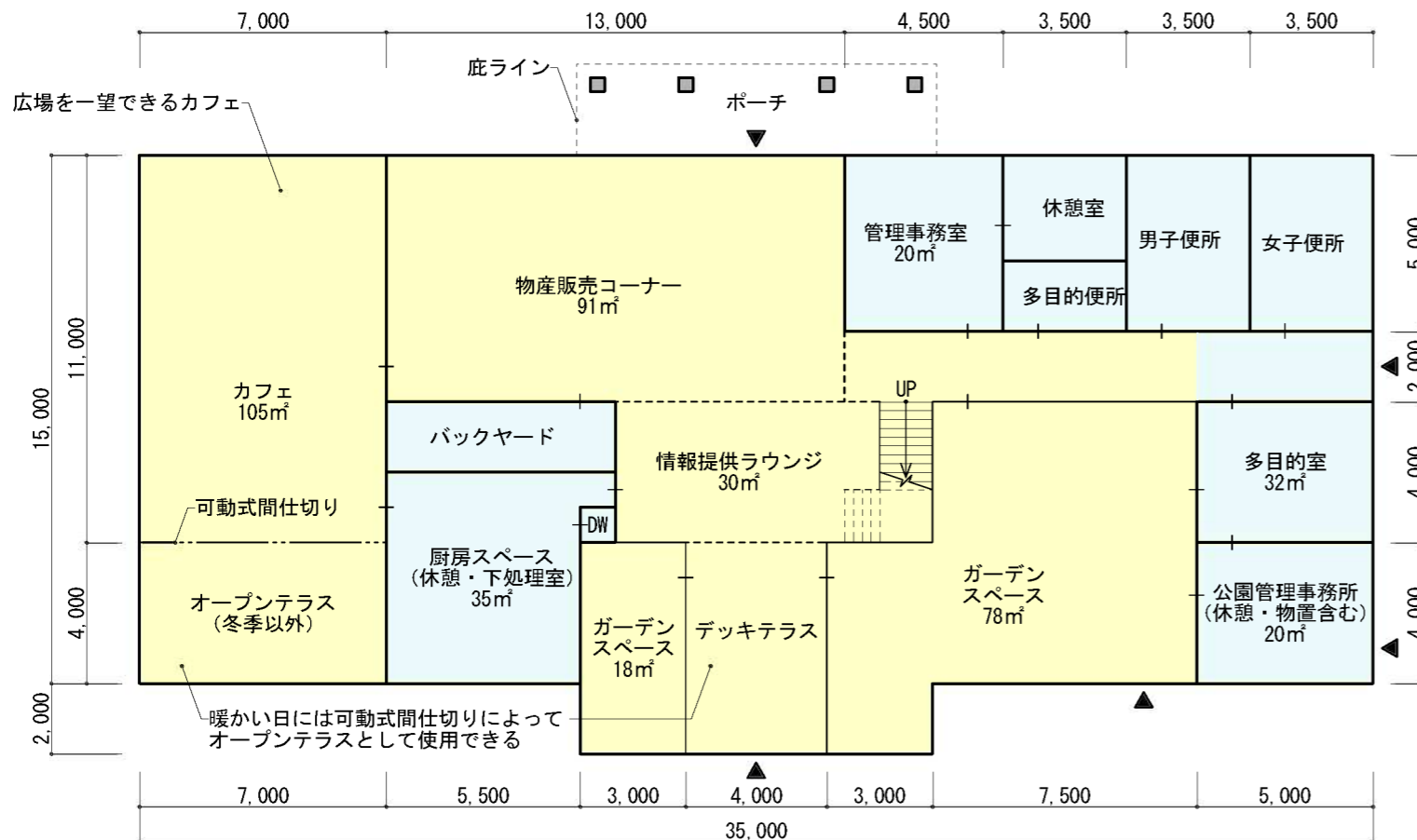
- ・整備コンセプトのひとつである「明治・大正時代のレトロな雰囲気」を創造する。
- ・大正ロマンの雰囲気を演出するため、明治・大正期を想わせる小道具を各所に配置する。
 - (1)街灯：ガス灯風のデザインと白熱灯色の光によって、大正時代を想わせる。
 - (2)建物のライトアップ：夜間には照明によるライトアップで、洋風の外観を引き立たせる。
 - (3)ブロンズ像：明治・大正期の格好をした等身大のブロンズ人物像を配置することで、来客者自身がその時代に行ったかのような感覚を持たせる。また人物像だけでなく、人力車などのように実際に乗ることができるレプリカを置くことで、フォトスポットの機能を持たせる。
 - (4)門・柵：エリアをしっかりと囲うような門・柵ではなく、街道のエントランスに部分的・装飾的に配置することで、大正ロマン街道の雰囲気を一層高める。
- ・観光交流センターの西側には、公園内の湧水などを利用した池を配置する。
- ・東側には、市民が観光交流センター内のガーデンスペースで栽培した花の苗を植樹する、ガーデンを設ける。
- ・大正ロマン街道北側には、車いす用の駐車スペースを設け、誰もが安心して大正ロマン街道にアプローチできるよう整備する。



〈学習機能、観光交流機能複合プラン〉



〈2階平面計画〉



〈1階平面計画〉

1階床面積：545㎡
 2階床面積：150㎡
 延床面積：695㎡

■ : パブリックスペース
 ■ : プライベートスペース



写真1 石造建築イメージ
旧日本郵船小樽支店 (1906)



写真2 むつ市に存在した洋風建築
大湊要港部庁舎

〈プランについて〉

1. このプランは、自然学習機能と観光交流機能を有する複合施設である。
2. 北側出入口を入った物品販売コーナーからは、ガラス張りのガーデンスペース（自然学習室）やカフェが見え、さらに南側からの採光が得られる配置としたことで、緑と人の動きの見える明るく開放的な空間となる。
3. カフェは広場や街道が見えるよう南北に開かれており、外部からの興味を惹き付ける。天気の良い日には間仕切りを使用して、オープンテラスとしても使用可能となる。
4. 二階には交流スペースとその控え室を設け、市民の交流スペースとなる。
5. 外壁は石張りとし、一部二階建ての「擬洋風建築」風とすることで、明治・大正期を彷彿させる外観とする。



写真3 カフェイメージ



写真4 ガーデンスペースイメージ

〈学習機能、観光交流機能複合プラン〉



北側立面イメージ1

・全面石張り仕上げにすることにより、旧士官宿舎や収蔵庫と同じ重厚な雰囲気の外観となる。

全面石張り仕上げ



北側立面イメージ4

・部分的な石張り仕上げとし、その他の部分にレンガなどの異種素材を組み合わせることで、より明治大正期の建物を彷彿とさせる外観となる。

一部石張り仕上げ



北側立面イメージ2

・1階部分のみを石張り仕上げにすることにより、重厚さを緩和させて入りやすい外観となる。

1階部分のみ石張り仕上げ

漆喰風仕上げ



北側立面イメージ5

・1階部分を石張り仕上げにし重厚感を演出しつつ、二階部分を漆喰風仕上げとすることで、親しみやすく入りやすい雰囲気となる。
・また陸屋根とすることで、屋根雪の落雪を防ぐ。

1階石張り仕上げ

2階漆喰風仕上げ



北側立面イメージ3

・1階腰壁部分のみを石張り仕上げにし、腰上を漆喰風仕上げとすることにより、より親しみやすく入りやすい印象となる。

1階腰壁のみ石張り仕上げ
腰上は漆喰仕上げ

漆喰風仕上げ

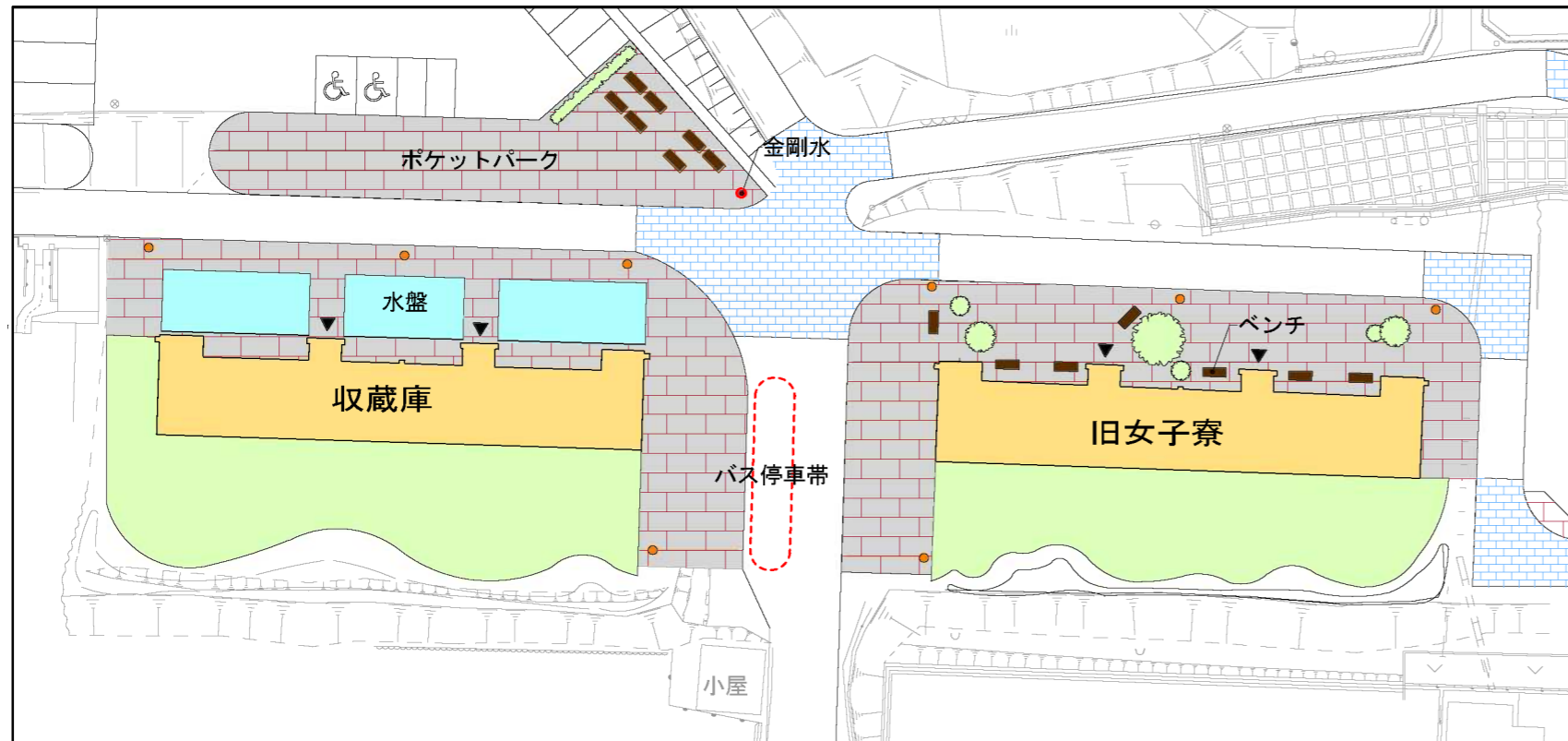


北側立面イメージ6

・1階部分を石張り仕上げにし重厚感を演出しつつ、二階部分を漆喰風仕上げとすることにより、親しみやすく入りやすい雰囲気となる。

1階石張り仕上げ

2階漆喰風仕上げ



収蔵庫・旧女子寮配置計画

〈凡例〉 ● : 街灯
 ■ : 計画建物

〈収蔵庫・旧女子寮〉

- ・大正5年に建てられた価値ある建築物の外構として、建築当時の雰囲気を醸し出すよう、演出する。
- ・大正ロマン街道同様、明治・大正期を彷彿させる街灯を配置し、建物をライトアップする。
- ・収蔵庫の北側には、湧水である金剛水を使用した水盤を設ける。
- ・全面道路の北側には、ポケットパーク・身障者用駐車スペースを配置する。
- ・旧女子寮北側にある既存樹はそのまま生かし、周囲にベンチを設けることで、当時の雰囲気を再現する。



写真 建物ライトアップイメージ



写真 水盤イメージ



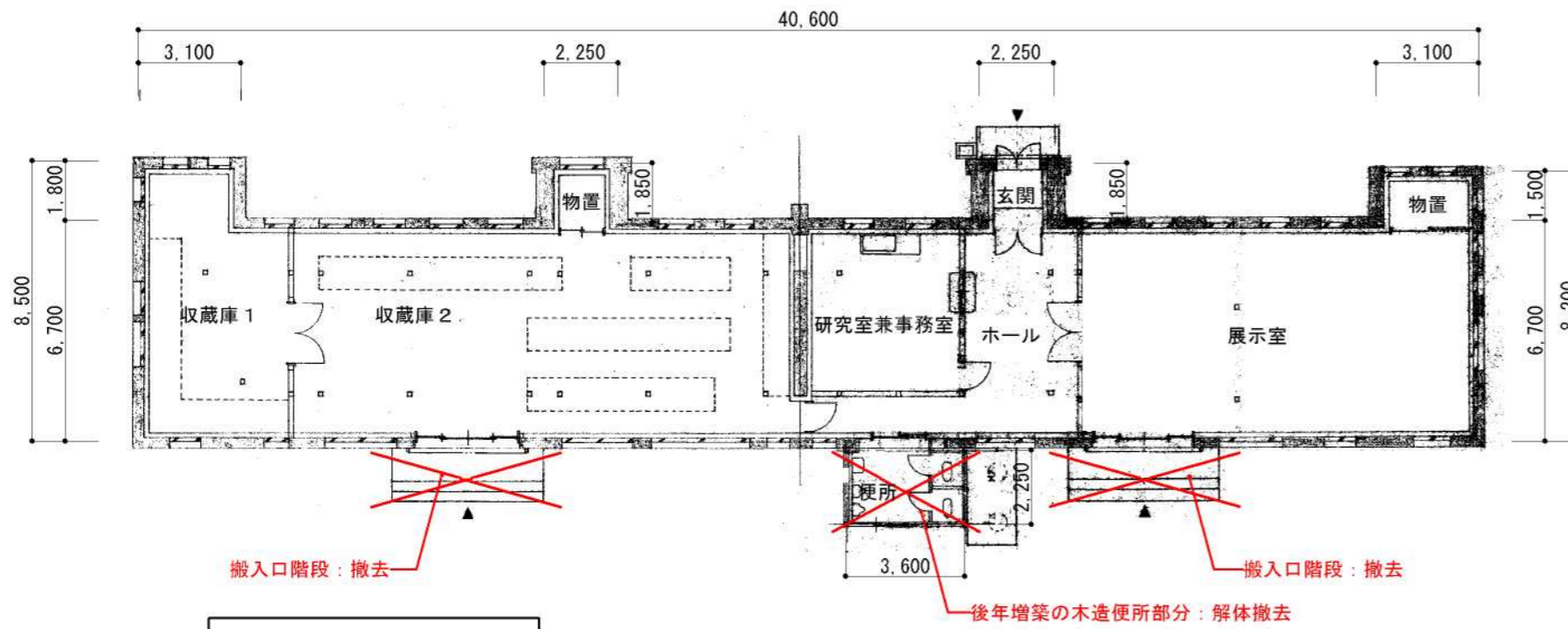
写真 金剛水



写真 街灯イメージ



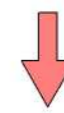
写真 ポケットパークイメージ



既存平面図 S=1/200

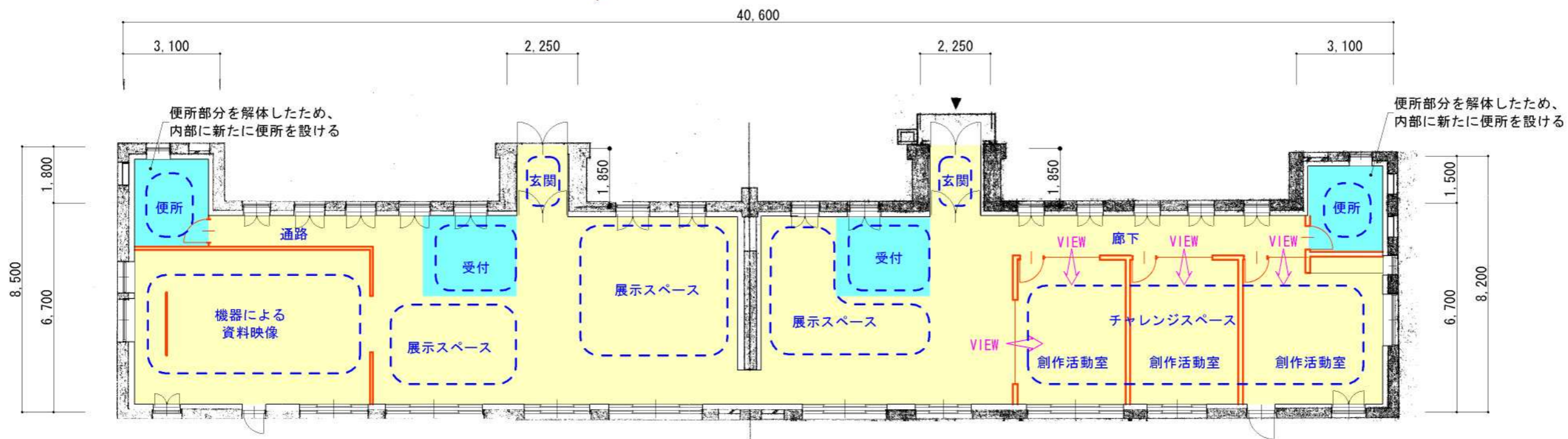
【既存建物概要】

- ・建物用途
博物館？
※大元の「士官宿舎」から用途変更申請はされていない
- ・構造、規模
石造一部木造 1階、延床面積 298.67㎡
- ・建造年
大正5年
※建築基準法成立前
収蔵庫への改修は昭和59~60年と推定



【改修計画】

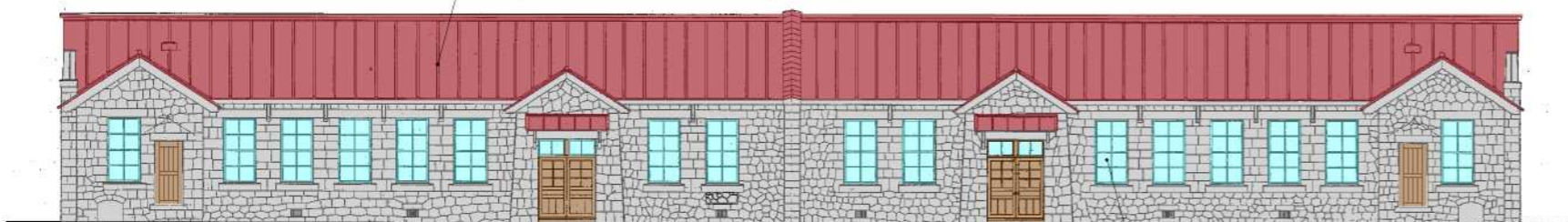
- 大湊の歴史学習センター+チャレンジスペース
- ・用途変更、大規模な模様替え（増築なし）
- ・開口部を改修
→収蔵庫に改修した時に閉鎖された開口部を、改めて開口部として木製建具で復旧させる。
- ・石造部以外の傷みの激しい木造部分は解体する。



改修案平面 S=1/150

- 室名 : 用途変更改修するエリア
- 間仕切変更部分
- パブリックスペース
- プライベートスペース

既存のカラー鉄板立平葺を下地組とも撤去後
カラーガルバリウム鋼板を旧女子寮に合わせた形状にて葺き替え



北側立面 S=1/200

開口閉鎖部分を撤去後
木製建具にて復旧

既存のカラー鉄板立平葺を下地組とも撤去後
カラーガルバリウム鋼板を旧女子寮に合わせた形状にて葺き替え



南側立面 S=1/200

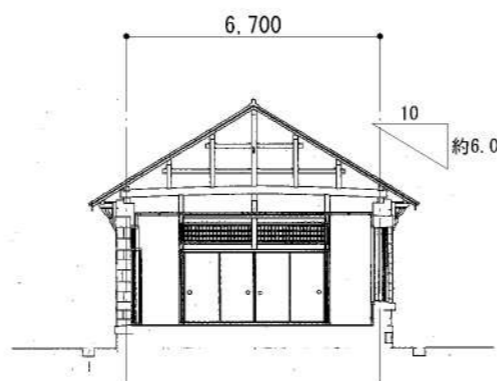
開口閉鎖部分を撤去後
木製建具にて復旧

既存のカラー鉄板立平葺を下地組とも撤去後、
カラーガルバリウム鋼板を旧女子寮に
合わせた形状にて葺き替え



東側立面 S=1/200

開口閉鎖部分を撤去後
木製建具にて復旧

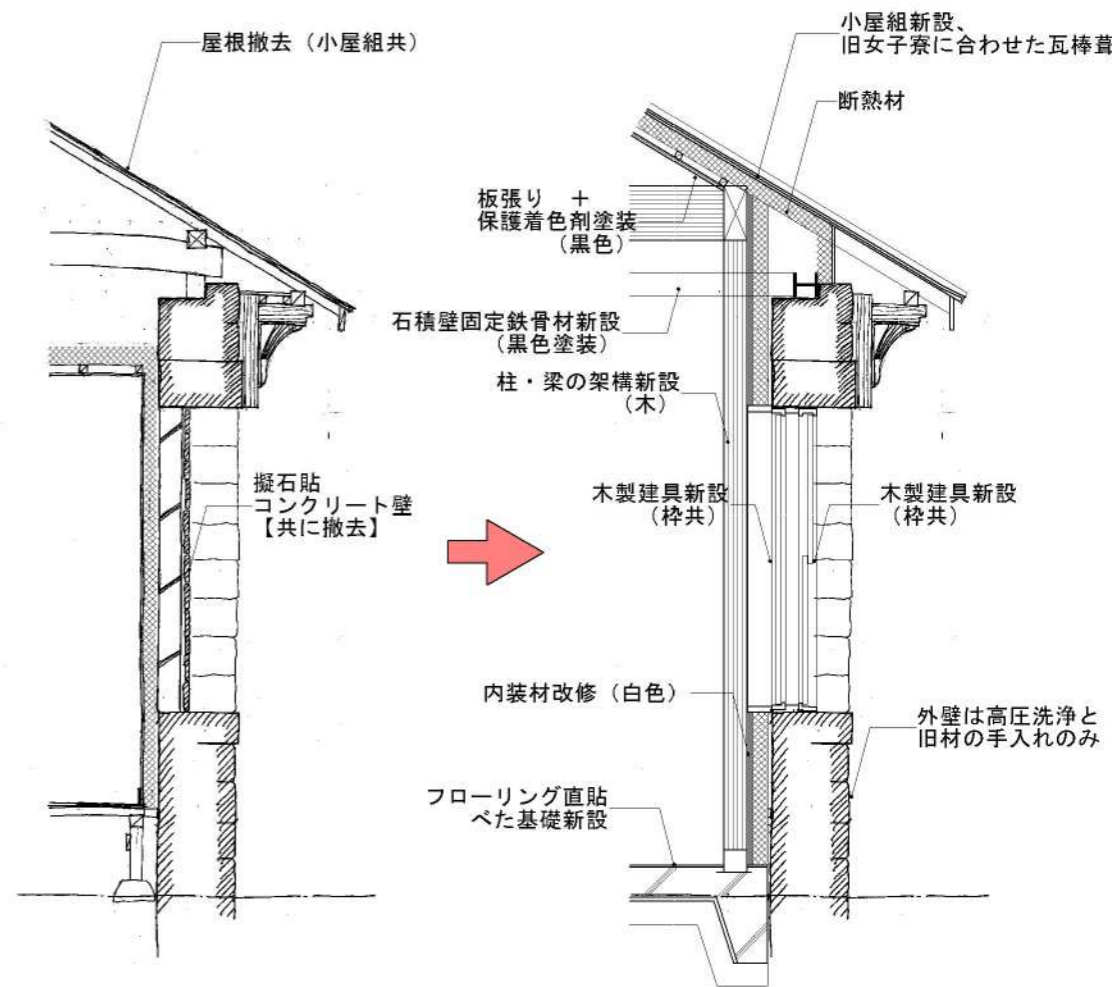


既存断面 S=1/200

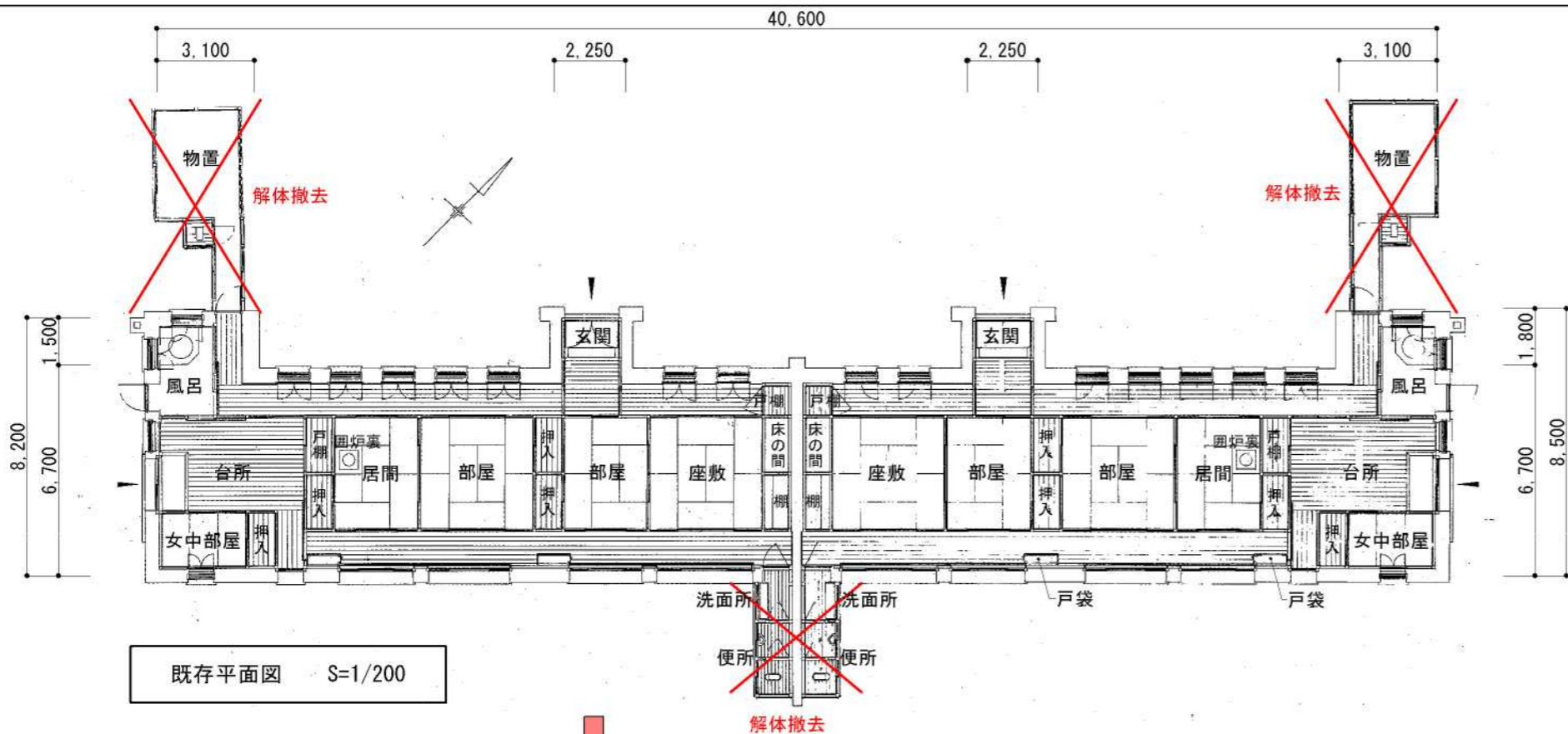
※旧女子寮の資料より



写真 現在の収蔵庫の様子



部分断面 S=1/50

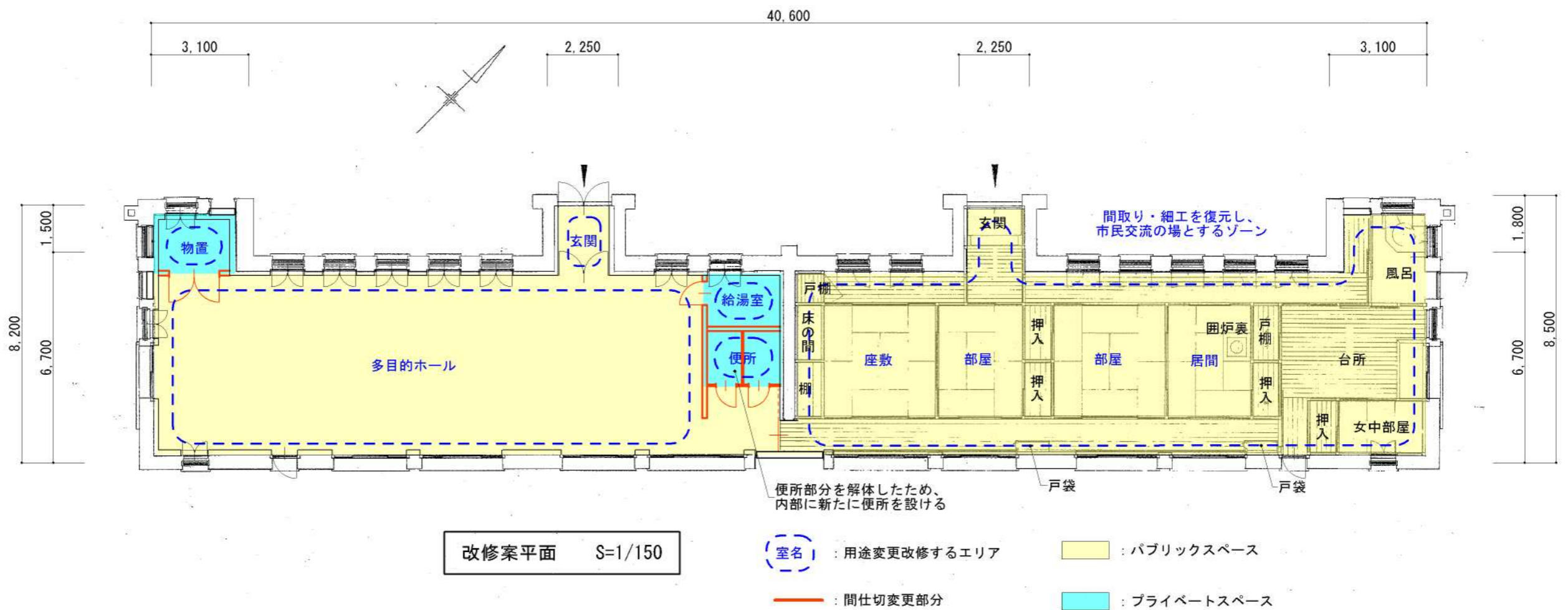


【既存建物概要】

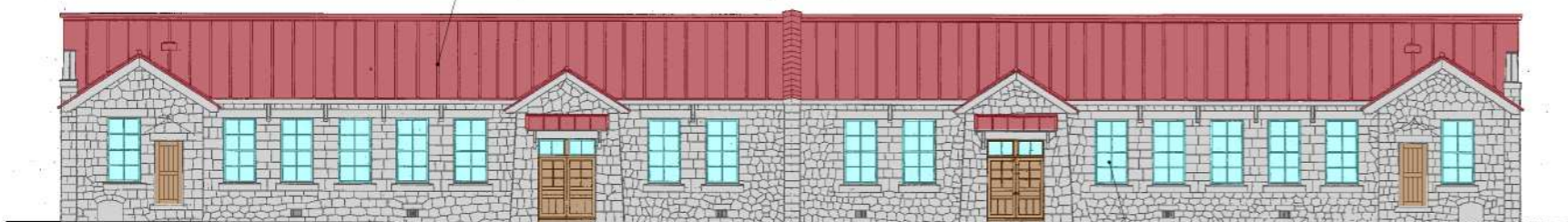
- ・建物用途
寄宿舎（士官宿舎→女子寮）
- ・構造、規模
石造一部木造1階、一部解体後の延床面積 約300㎡
- ・建造年
大正5年
※建築基準法成立前

【改修計画】

- 市民交流の場としての地域交流センター
- ・用途変更、大規模な模様替え（増築なし）
- ・開口部を改修
→既存建具は全て撤去し、外部は木製サッシにて新設。
内部の開き窓も木製にて復元する。
一部旧出入口については、外部に木製扉を模した壁で閉鎖とする。
- ・石造部以外の傷みの激しい木造部分は解体する。



既存のカラー鉄板立平葺を小屋組とも撤去後
カラーガルバリウム鋼板を旧女子寮に合わせた形状にて葺き替え



既存北側立面 S=1/200

既存木製建具を撤去後
木製建具にて復旧

既存のカラー鉄板立平葺を小屋組とも撤去後
カラーガルバリウム鋼板を旧女子寮に合わせた形状にて葺き替え



既存南側立面 S=1/200

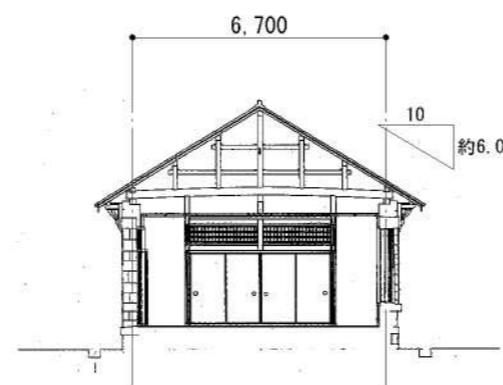
便所部分 軸組共撤去

既存木製建具を撤去後
木製建具にて復旧

既存のカラー鉄板立平葺を小屋組とも撤去後
カラーガルバリウム鋼板を旧女子寮に合わせた
形状にて葺き替え



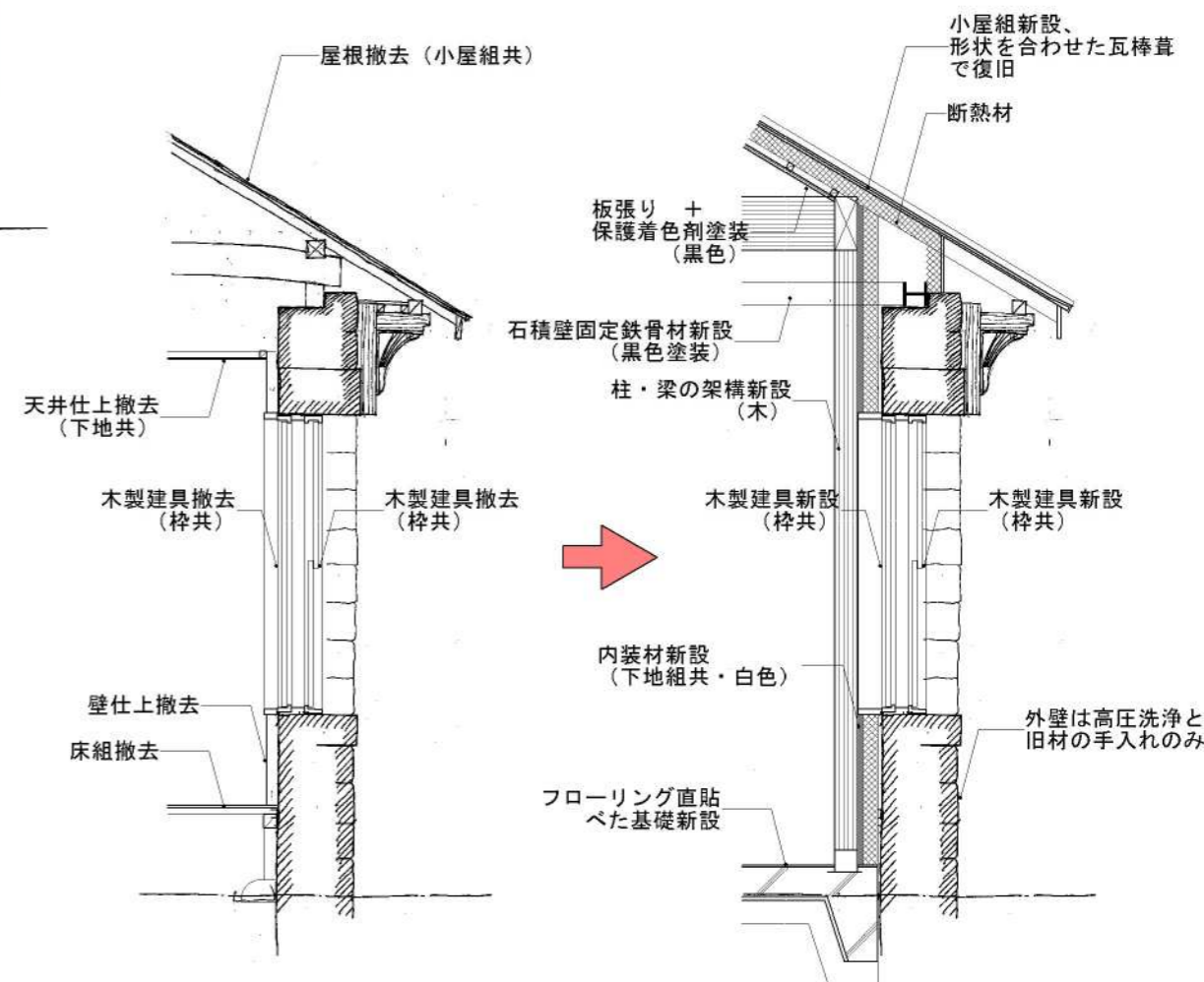
既存東側立面 S=1/200



既存断面 S=1/200



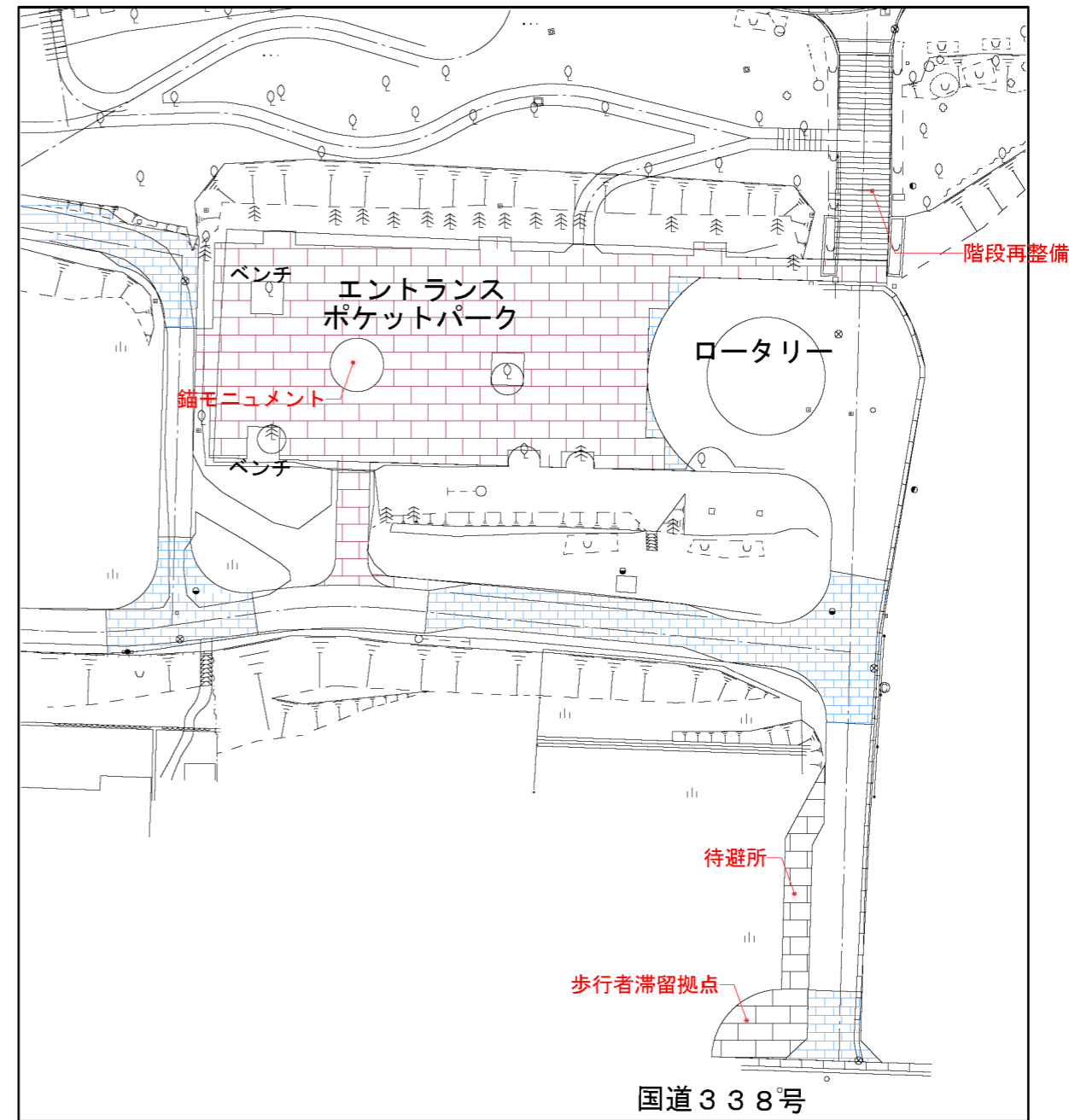
写真 現在の旧女子寮の様子



部分断面 S=1/50



市道桜木町9号線駐車場・展望台 配置計画



国道338号
エントランスポケットパーク部分 配置計画



石造建物と大階段



大階段 (ライトアップ)

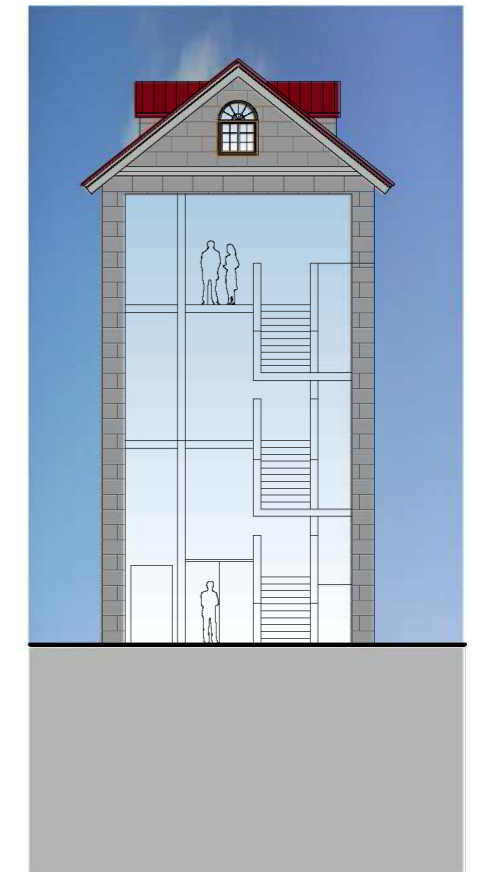
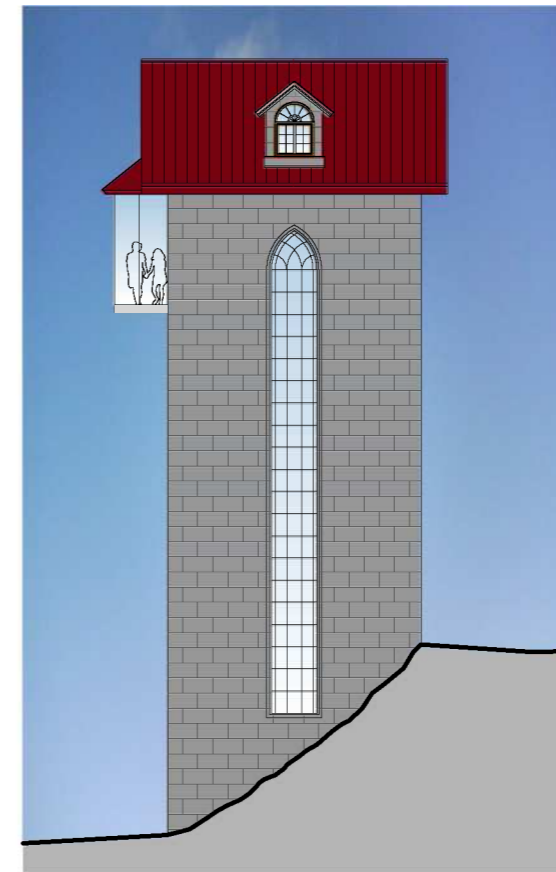
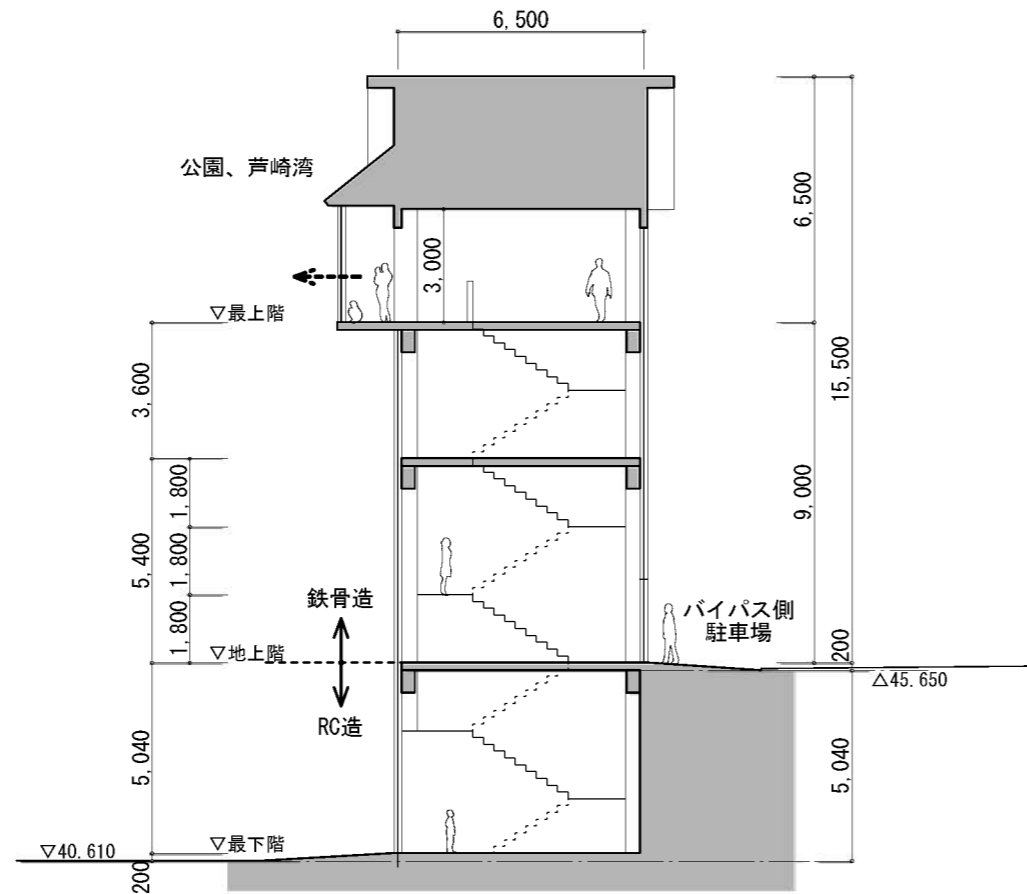
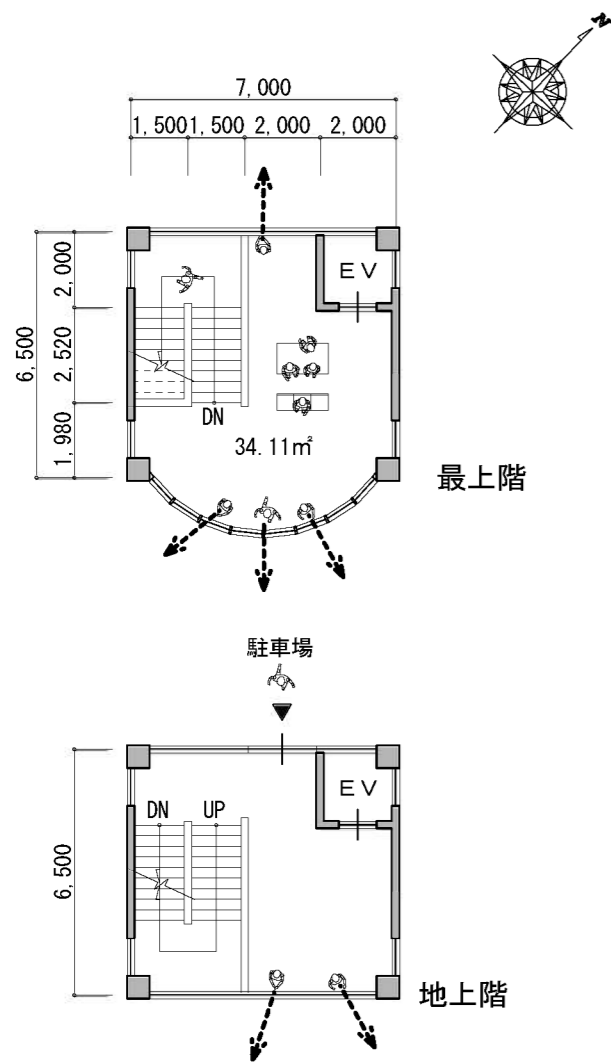


エントランスポケットパーク



ロータリー

〈昇降装置設置プラン〉



〈断面イメージ〉

東西側から

駐車場側から

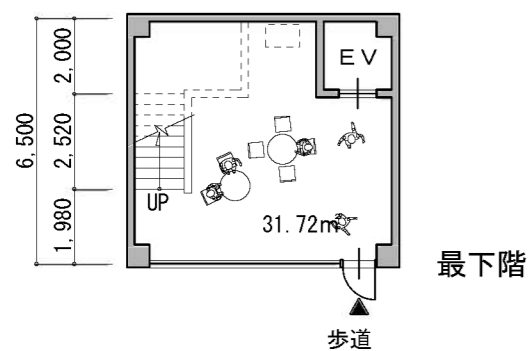
〈立面イメージ〉

〈平面計画について〉

- ・高さ検討において、芦崎湾が一望できると判断された9mまで、階段またはエレベーターで上り下りする。
- ・展望スペースの他に、ベンチなどを設けた休憩スペースを配置する。

〈立面計画について〉

- ・ガラスを多用し内部の人の動きを見せ、興味をひくことで、集客効果を狙う。
- ・ガラスを多用しつつも、大正ロマン街道に面した東面、西面を西洋館風な外観とすることで、大正ロマンの雰囲気損なわないように演出する。



〈平面イメージ〉

床面積：45.5m²/各7
(最上階のみ 51.6m²)



写真 休憩スペースイメージ



写真 人の動きが見えるガラス張り

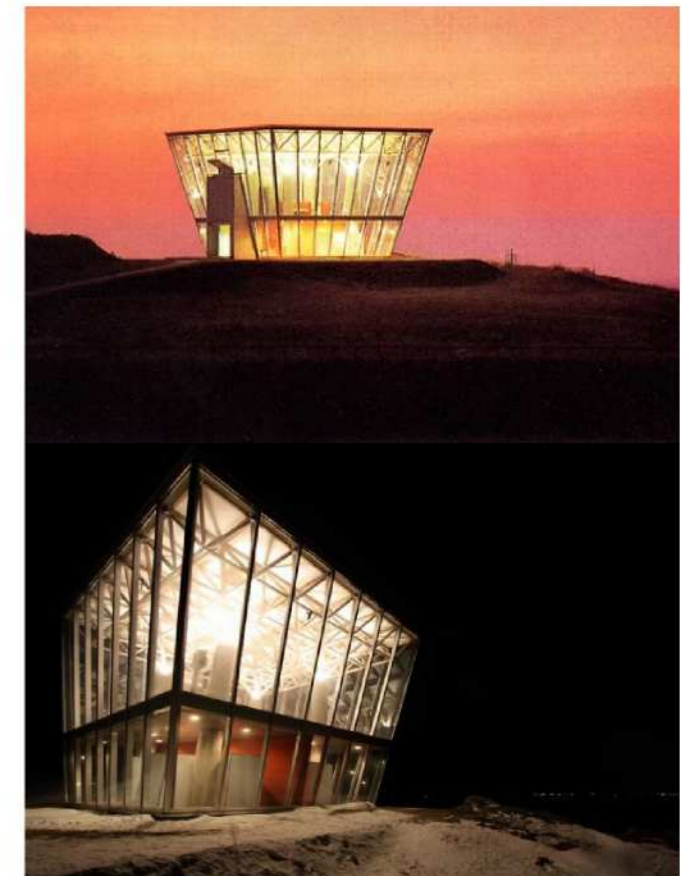


写真 夜の展望台イメージ



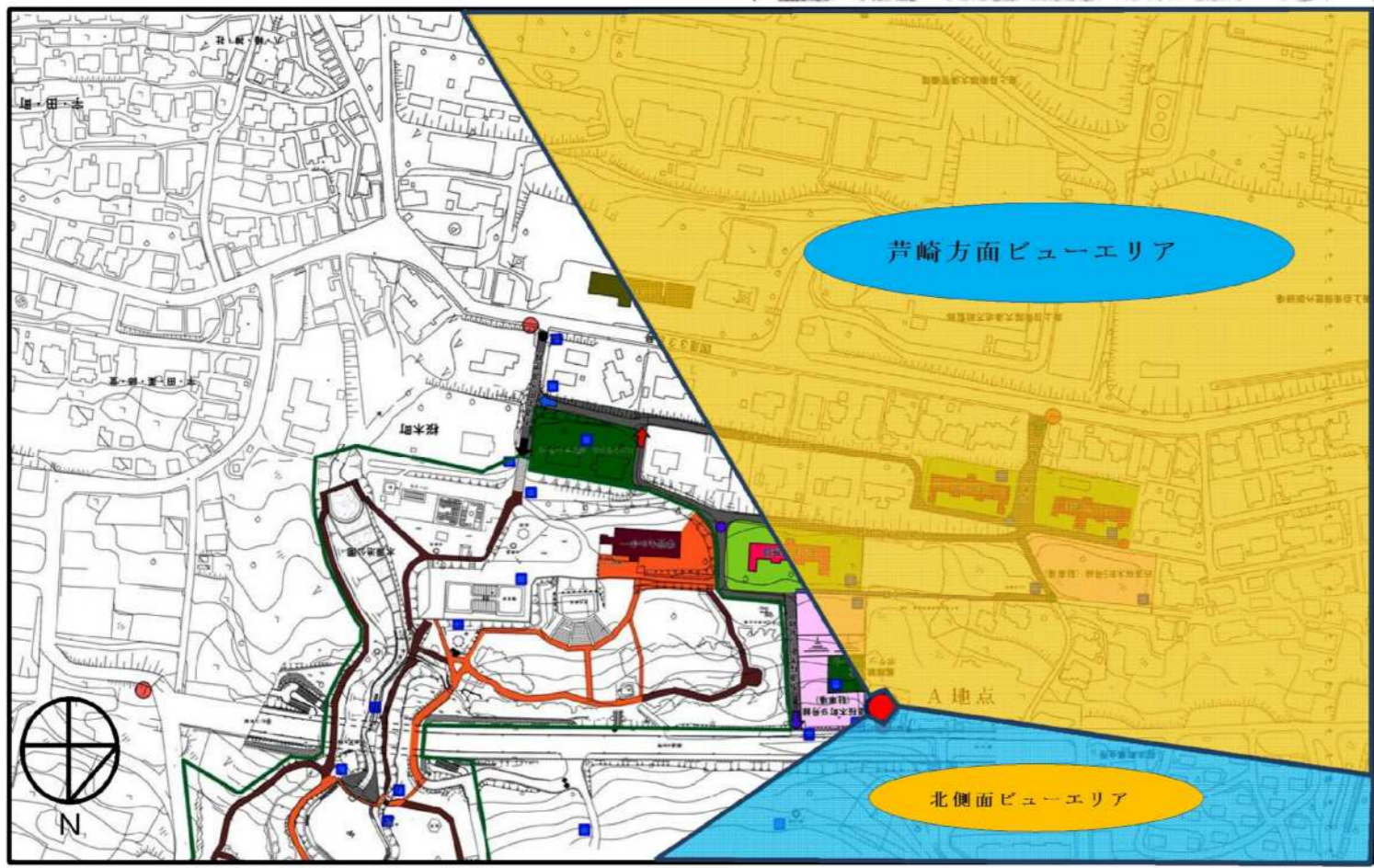
【北の防人大湊】：展望台からの眺望（A地点 地上10m）



～芦崎方面～



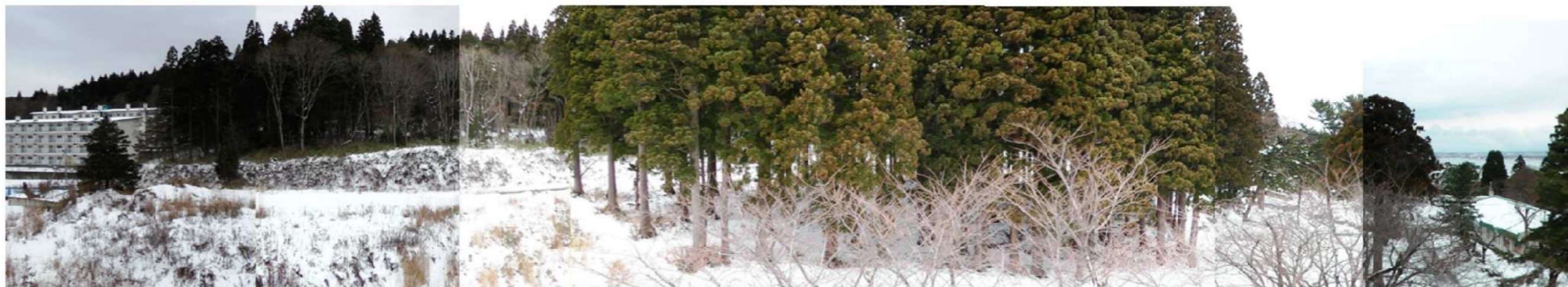
～北側面～



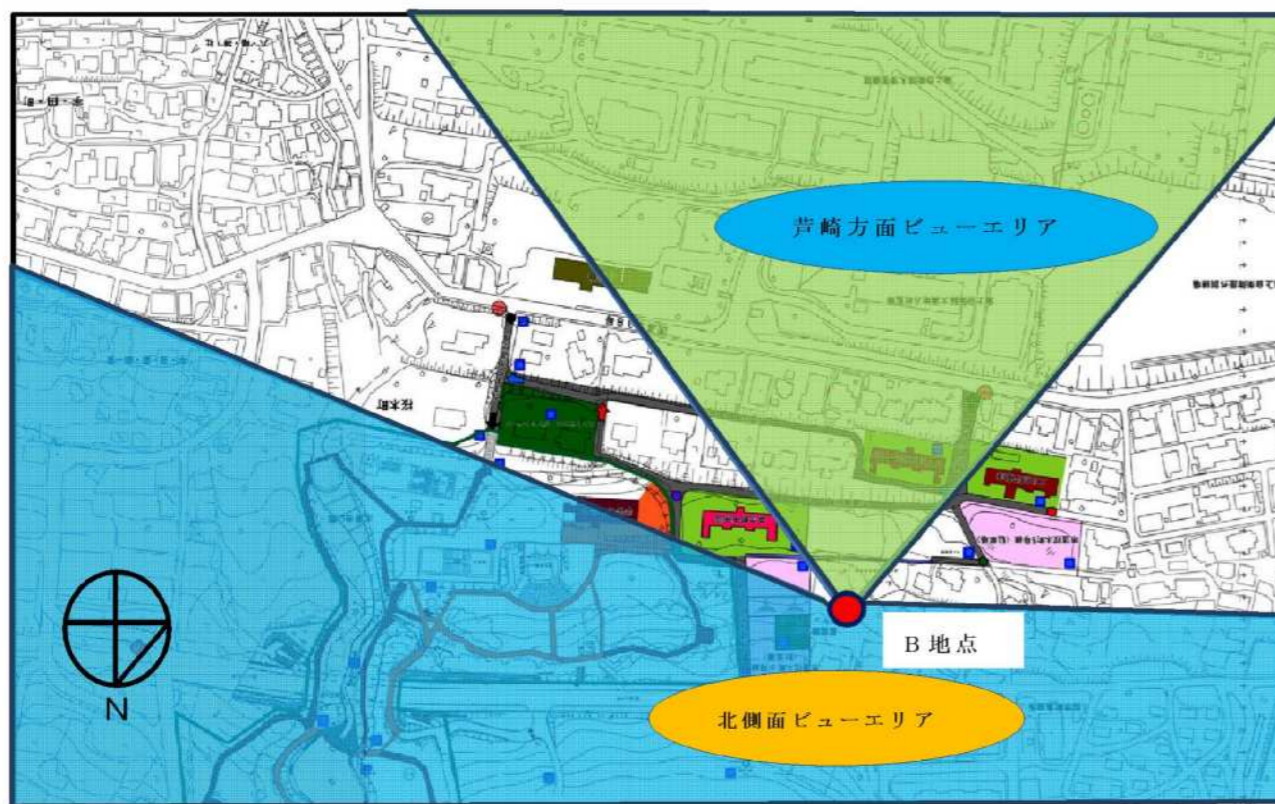
【北の防人大湊】：展望台からの眺望（B地点 地上10m）

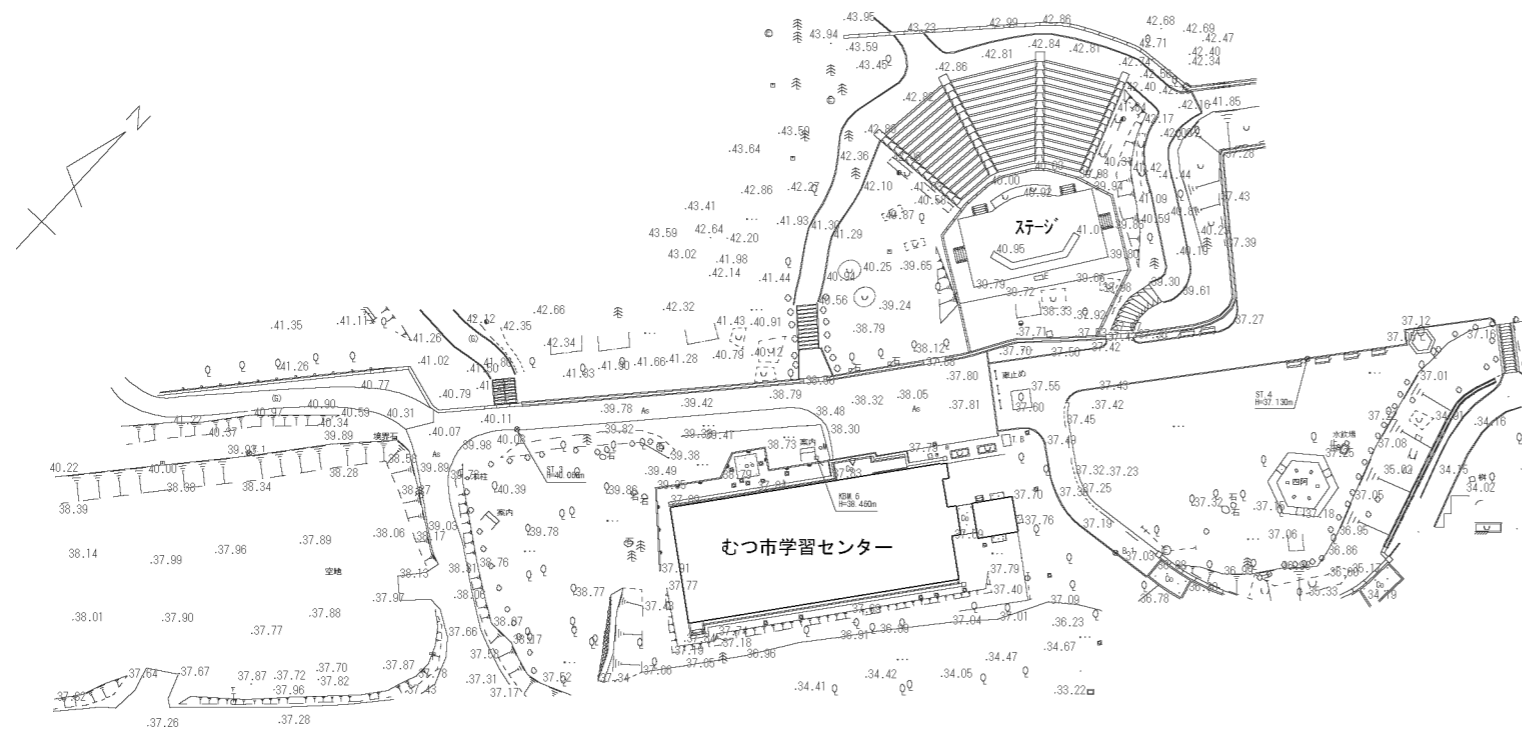


～芦崎方面～

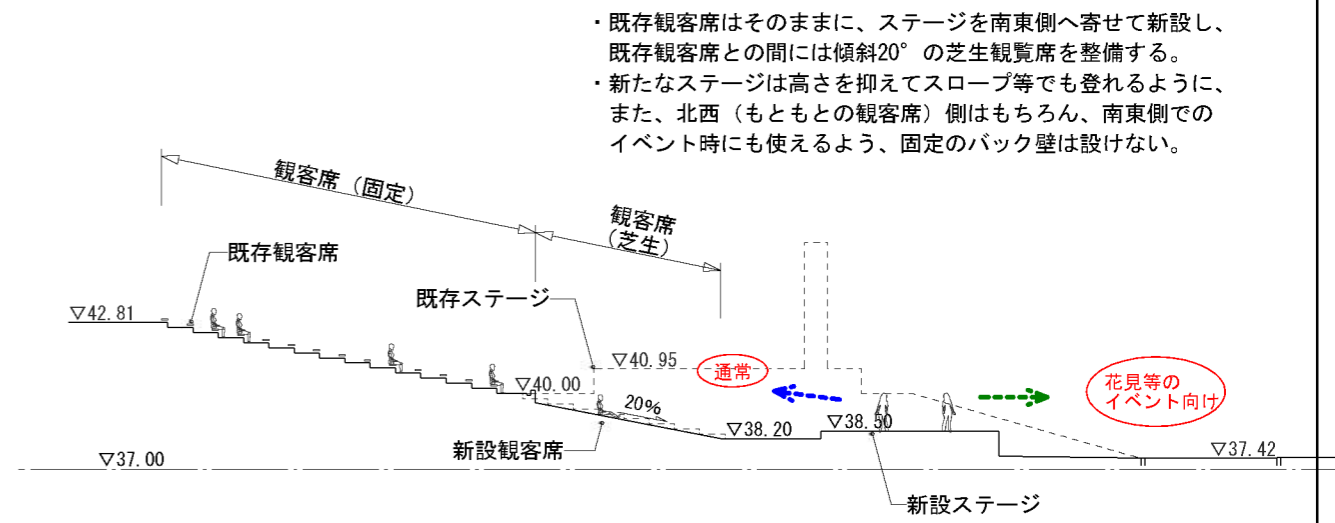


～北側面～



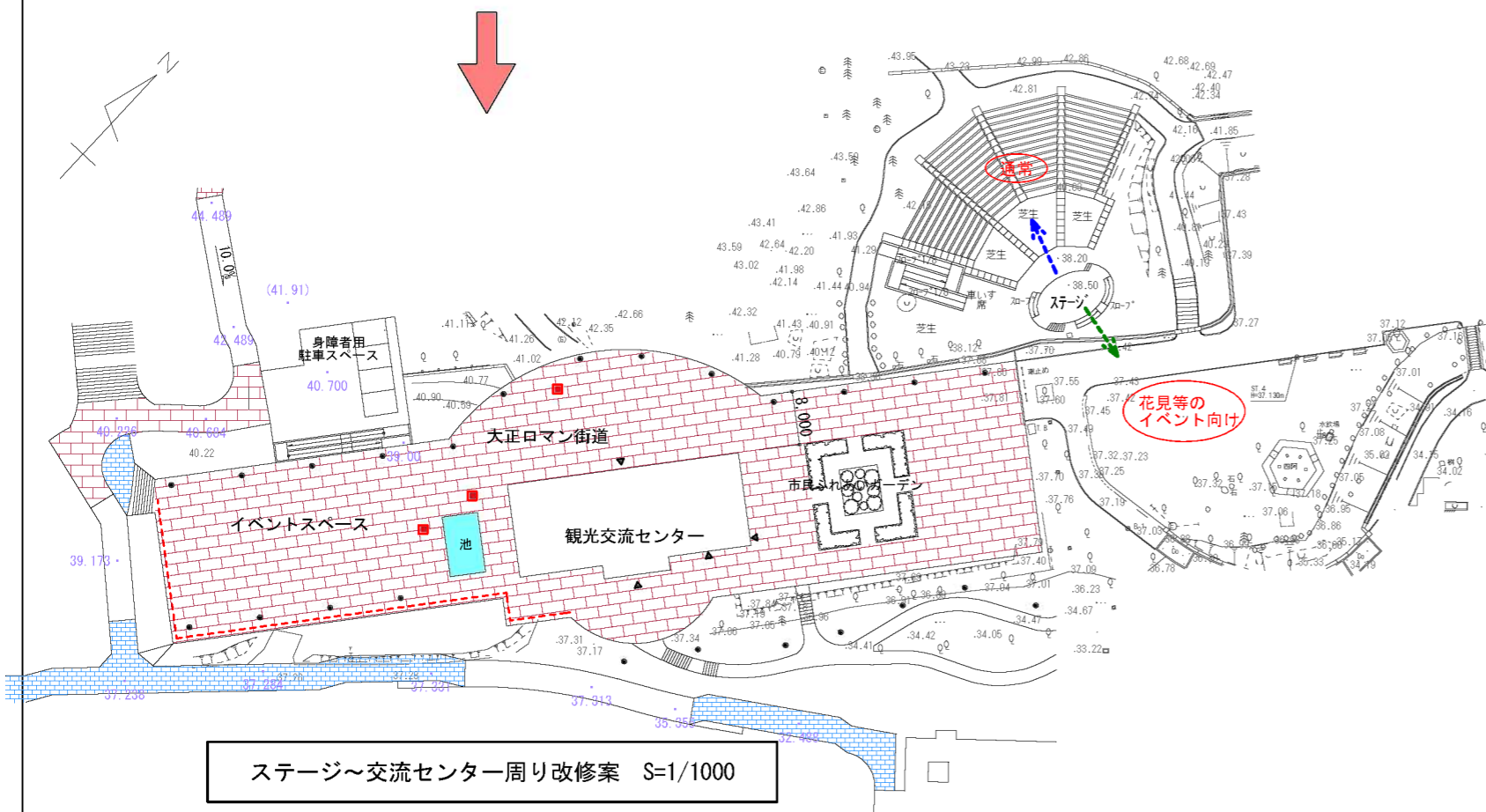


ステージ～交流センター周り現況 S=1/1000

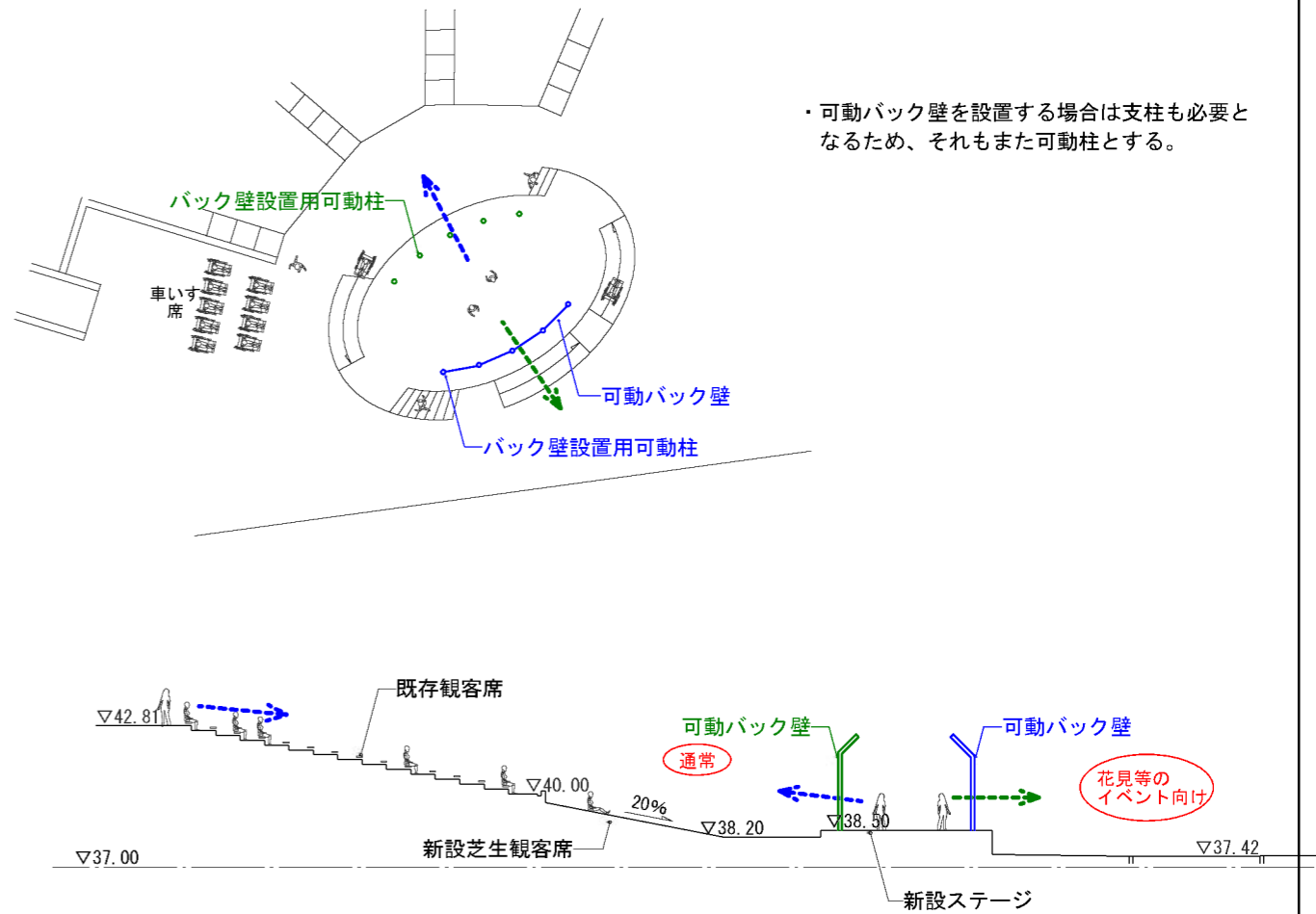


ステージ周り断面案 S=1/300

- ・既存観客席はそのままに、ステージを南東側へ寄せて新設し、既存観客席との間には傾斜20°の芝生観覧席を整備する。
- ・新たなステージは高さを抑えてスロープ等でも登れるように、また、北西（もともとの観客席）側はもちろん、南東側でのイベント時にも使えるよう、固定のバック壁は設けない。



ステージ～交流センター周り改修案 S=1/1000



屋根・バック壁検討案 S=1/300

- ・可動バック壁を設置する場合は支柱も必要となるため、それもまた可動柱とする。